



・発行者・
京都障害者
スポーツ
振興会

題字 芝田 徳造

「城陽スポーツのつどい300」

サン・アビリティーズ城陽
館長 井川善博

「障害者スポーツのつどい」は、スポーツする機会を持ちにくい障害のある方々にスポーツの喜びを伝えたい。という思いで38年前に京都府立体育館を会場に始めました。

その後、京都府南部地域での取り組みとして京都障害者スポーツ振興会と共催で、昭和60年9月から当体育館（サン・アビリティーズ城陽）で毎月第4日曜日（午後）の12月のみ第3日曜日）に「城陽障害者スポーツのつどい」を開催しています。

府立体育館では、去る7月11日に450回記念のつどいが盛大に開催されたところですが、城陽では8月22日のつどいで300回を数えました。当館が開館したのは昭和58年11月です。その「サン・アビリティーズ」の歴史は「つどい」と

共に歩んできたと言っても過言ではありません。

当初は、振興会の水谷様を始め多くの方々にご指導いただき、見よう見まねでスタートしました。昭和61年度の開催日には、参加者がゼロでスタッフのみの日もあり、落胆したことを思い出します。

その後、昭和63年の京都での身障国体を期に京都の障害者スポーツへの関心が深まり、常連の方も増え、現在に至っています。ここまで続けられたのは、スポーツ振興会の、「障害のある人々にもスポーツ（身体運動）を！」という障害のある人々にこそスポーツ（身体運動）を！との主張で粘り強く実践を続けて来られた「障害者スポーツのつどい」の趣旨が生きていると思えます。

城陽のつどいは、準備運動（未来君体操、ストレッチ、歩いたり走ったり）の

後、参加者の状況に応じてスポーツゲームを行い、休憩を挟み後半は、トランポリン、卓球、風船バレー、ボール運動などを自由に楽しんでいます。なお、今年5月からは、スポーツ振興会専門部スタッフの協力でアーチェリー体験コーナーを復活しました。日頃体験できない競技なので興味深く参加され、今年5月からは、スタッフの協力でアーチェリー体験コーナーを復活しました。

簡単な工作など作品作りも楽しんでいきます。「今日は何を作るの」と毎回楽しみにされています。運動は苦手と思われる方も一度覗いてください。きつと楽しいことが見つかりますよ。さて、300回記念のつどいですが、例年の「夏まつり」をバージョンアップして11時から実施しました。館内施設の和太鼓でオーブンし、焼きそば、綿菓子などの模擬店、スポーツゲームコーナー、利用施設自主製品販売など思い思いに楽しみました。ゲーム

ムトライアルは、吹き矢・バスケットシュート・ボッチャ・フライングディスク・卓球ラリーで、何度も記録に挑戦されています。ミニコンサートは、スポーツで利用されている方によるギターの弾き語りを聴き、最後はアンコールで盛り上がりました。

今回は、つどいの常連から初めての人と多くの方々に参加いただき「城陽のつどい」をアピール出来たと思っっています。小さな体育館の取り組みでは、大きな事は出来ませんが、参加した人が「また来よう」と思われたり、スポーツへの入門となれるよう、笑顔で元気にアットホームな雰囲気が続けていきたいと思っっています。一緒に活動していただければ嬉しいです。毎月は無理でも結構です。利用者とお待ちしています。



行事予定	10月	12(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園	来月のつどいは 11 / 14 第2日曜日
		17(日)	225回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
			第33回府民総体交流種目卓球バレー大会	京都市障害者教養文化・体育会館	
			第10回全国障害者スポーツ大会	千葉県	
		24(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
	30(土)	京都障害者陸上競技体験会・記録会	丹波自然運動公園陸上競技場		
11月	5(金)	第15回精神障害者スポーツ大会	京都市体育館		
	9(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園		

車椅子ハンドボール審判講習会 10/23,30,11/6,13,20,27(いずれも土曜日):京都市障害者スポーツセンターにて

京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010
<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/> (2010年9月21日に一部更新)

スポ振ルネサンス (31)

〜心でつなぐ活動を〜
京都障害者スポーツ振興会

副会長 水谷 裕

今月の4日に、京都市障害者スポーツセンターのプールにおいて開催されました『第22回京都市障害者スポーツセンター水泳記録会』でのこと。

エキジビションで、シンクロナイズド スイミングのチーム「セーラムーン」の演技を観ました。

シンクロナイズド スイミングは、毎年5月に、日本障害者シンクロナイズド スイミング協会主催で、全国から多くの障害のある演技者の参加を得て「障害者シンクロナイズド スイミング フェスティバル」が開催されており、いつも観せていただいているのですが、なかなか、ゆつくりと、また、じっくりと観る機会が少ないのが、本当のところでは、

昨年「スポ振ルネサンス(15)」において、障害のある人々の中にシンクロが拡がってきたのには、それなりの訳、つまり、障害のある人々のスポーツを振興していく上で欠かせない条件が基本にあると書き、次のような、基本条件

を挙げました。それは、
一、年齢や性別に関係なく取り組めること。

二、障害の種類や重い軽いに関係なく取り組めること。

三、陸上では移動が困難な人でも水の浮力によって移動が可能になること。

四、浮力の効果により、自らの意思で自己表現ができること。

五、楽しみながらチャレンジができること。

六、仲間ができ、共に活動ができること。

などで、こういった条件が相乗的に合いあって、障害のある人々個々が持つ可能性を追求できる場面を自らの力でつくりあげられる環境が構築できるからで、これらが京都障害者スポーツ振興会の活動の本来の意味があるといえるのです。

話は戻りますが「セーラムーン」は、京都市立呉竹養護学校(現京都市立呉竹総合支援学校)のOBの重い障害のある人たちと母親たちで原則的に構成し、学生ボランティアなどの協力を得ながら、20年ほど前からシンクロナイズド スイミングに取り組んでいるグループです。今回「セーラムーン」の演技をゆつくりと、また、じっくりと観せていただいて感じるものがありました。

こんなことを言うと、懸命に演技をしておられる人々に失礼で、障害のある人々のスポーツ活動の支援を仕事としてしている者として不謹慎でふさわしくないとお叱りを受けるかもしれないとお叱りを受けるかもしれないが、あえて言うとして、単なるシンクロなら「見た目シンクロの技術」としては、成り立っていない「と言われても仕方がないものです。しかし、障害のある人が行うシンクロ、とりわけ、重い障害のある人々が親やボランティアと行うシンクロとしては、また別の見方が生じてきます。

普段の生活環境では、自由に動けない環境に置かれていて、重い障害のある人々が、水という身体が動きやすい環境を得て演技をされている姿を見ていると、日常生活では容易に見られない表情に満ち、共に演技されている親やボラ

ンティアの人たちとひとつになつて、自分たちの可能性を見いだし、心から楽しんでおられるのが何われ、まさに、人と人がシンクロナイズされているといえるものだと確信します。私は、「セーラムーン」の演技を観て、そこに京都障害者スポーツ振興会が障害のある人々のスポーツ活動を支援する団体として、発足の原動力の一端を改めて見たように思いました。



このことは、ともすれば時代に追われて、本来あるべき視点を失いがちな私の目をわずかながら覚まさせてくれたように思います。

第30回全京都障害者総合スポーツ大会
アーチェリー大会
日時 9月30日
会場 南丹市日吉総合運動公園
初級者の部 (新: 大会新記録)

下肢	栗津宏文(南丹市)	320点
	外美千代(伏見区)	537点
車いす	工藤英雄(西京区)	639点
	八木貞男(南丹市)	414点
	若松孝子(京丹波町)	498点
中級者の部	高谷 博(山科区)	582点
	高谷洋子(山科区)	627点
	石黒仙一(南区)	595点
	吉野 隆(南丹市)	424点
	笠原友子(北区)	576点
	栗山勝美(南丹市)	108点
	田村 元(左京区)	321点
上級者の部	鈴木偉也(西京区)	499点
	森 ふさ(西京区)	432点
	谷垣ひとみ(上京区)	455点
車いす	中川敬治(城陽市)	561点
聴覚	大槻弘昭(山科区)	512点
初心者の部	李 愚公(北区)	339点
	喜多清美(宇治市)	270点